

世界遺産登録について考える

世界遺産講演会

市では、「天草の崎津集落」を構成資産に含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の気運を高めようと2月8日、「世界遺産講演会」を天草市民センターで開催し、市内外から約350人が参加しました。

文化庁記念物課の本中眞・主任文化財調査官が近年の世界遺産登録状況を説明したほか、北海道大学観光学高等研究センターの西山徳明・センター長が「世界遺産と観光とまちづくり」と題して講演。また、西山センター長と本中主任文化財調査官、安田市長による座談会が行われ、参加者からは「世界遺産を目ざす理由を明確に打ち出してほしい」「長崎県の地元関係者とのつながりをつくるのも大事」などの意見が出されました。



▲講演をする西山センター長

男子が4連覇を達成、女子は6位

熊日駅伝

「第31回熊日都市対抗女子駅伝大会」が1月26日、「第40回都市対抗熊日駅伝大会」(男子)が2月9日に行われ、市チームは男子が4連覇を達成、女子は6位でした。女子はびふれす熊日会館前(熊本市)をスタート・フィニッシュとする7区間28.4km、男子は天草市から熊本市までの14区間105.5kmのコースで行われ、いずれも県内19チームが出場。男子は、最終14区で武田信也選手(天草消防)が球磨郡に並ばれましたが、約300m前でラストスパートをかけて振り切り、見事優勝を果たしました。

男子3区の畑山修生選手(日本文理大学)が最優秀選手賞を受賞しました。



▲4連覇達成をアピールしながらゴールする武田選手

田園に広がる菜の花を楽しむ

くすぼ菜の花と神々の郷ウォーク

1月26日、有明町楠南地区で「第6回くすぼ菜の花と神々の郷ウォーク」が開かれ、県内外から約500人が参加しました。くすぼ菜の花フェスタ実行委員会が実施したもので、コースは楠南地区コミュニティセンターをスタート・ゴールとする6.7kmと2.5km。この日は天候に恵まれ、参加者は田園に咲いた菜の花を楽しみながら歩いていました。また、コース中に点在する8つの神社などにお参りし、休憩所では地区住民によるぜんざいやイノシシ肉の串焼きなどを堪能。ゴール後はお楽しみ抽選会やもち投げが行われるなど、参加者は楽しいひとときを過ごしていました。



▲菜の花を楽しみながら歩く参加者

左右の安全確認をしましょう

高齢者交通安全教室

1月21日、「高齢者交通安全教室」が深海町のふかみコミュニティセンターで開催され、地区住民52人が参加しました。参加者は、県交通安全協会の講師の指導を受けながら、反射神経を高める手の運動や交通ルールを学んだほか、横断歩道での事故の模擬体験を実施。講師は、「横断をするときは、左右の安全確認を行い、渡り終えるまで緊張感を持つこと」と、参加者へ事故防止を呼びかけていました。



▲手の運動をする参加者



▲寄港した「まきしま」

掃海艇「まきしま」が御所浦港に寄港

掃海艇「まきしま」

1月23・24日、港湾と航路の安全を守ることを目的とした海上自衛隊の掃海艇「まきしま」(全長58m)が、御所浦港に寄港しました。この掃海艇の名前は、御所浦の「牧島」にちなんで名付けられています。24日には公開乗船が行われ、地元の自衛隊父兄会などから20人が参加。参加者は、「初めて自衛隊の船に乗り、とても大きくて驚きました」と話していました。

郷土の味をいつまでも忘れずに

高校3年生を郷土料理で送る会

2月2日、「高校3年生を郷土料理で送る会」が栖本福祉会館で行われ、栖本在住の高校3年生15人が参加しました。就職や進学でふるさとを離れる高校生に、郷土の味をいつまでも忘れずにいてもらいたいと、市社会福祉協議会・栖本支所が毎年実施しているもの。

生徒たちは、がねあげやいきなり団子、茶飯、プエン寿司など20品を堪能し、「地元の味を忘れないようにしたい」と話していました。



▲郷土料理を食べる高校生たち



▲ポンカンを積み上げる参加者

石工・ぽんかんの里に多くの人出

石工・ぽんかんの里 下浦町ふるさと祭り

「第22回下浦町ふるさと祭り」が2月2日、下浦運動広場で開かれ、約3,000人の人出でにぎわいました。下浦地区振興会が、町の特産である石工とポンカンをPRするために毎年行っているもの。会場では、石製品やポンカンの展示・販売などのほか、ポンカンを1分間にどれだけ高く積み上げられるかを競う、「ポンカンピラミッド」を実施。参加者は、少しでもポンカンが高く積み上げようと悪戦苦闘していました。